

2021年10月4日 第393号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

総がかり行動 臨時国会開会日行動に300人

首相が変わっても自公政治は変わらない!

市民と野党の共闘で新しい政治の実現を!

「自公政権交代!政治を変えよう!総選挙勝利!」一総がかり行動実行委員会は10月4日昼、国会議員会館前で臨時国会開会日行動を開催し、300人が参加しました。菅首相から岸田首相に代わっても、アベスガ政治を継承する自公政権では、私たちのいのちや暮らしを守ることはできません。市民と野党の共闘で



新しい政治を実現させるため、総選挙勝利にむけ、がんばりぬく決意を固めあいました。日本共産党の志位和夫衆議院議員、社会民主党の福島瑞穂参議院議員、立憲民主党の近藤昭一衆議院議員、沖縄の風の伊波洋一参議院議員があいさつしました。

戦争をさせない1000人委員会の竹内広人さんが主催者あいさつを行い、「コロナが感染拡大する中でオリ・パラを強行し、医療が受けられないまま亡くなる方を増大させた人災とも言うべき失政は、菅首相が辞めたからといって免罪されるわけではない。アベスガ政治を継承する自公政権に、政権は託せない。総選挙で政治を変えないといけない。市民連合と野党4党で6項目の政策合意がされ、もう一つの選択肢が示された。小選挙区で野党統一候補を擁立し、勝利するために全国でもにたたかおう」と呼びかけました。

市民の訴えとして3人が発言。市民連合運営委員・法政大学教授の山口二郎さんは、「自民党は腐敗堕落している。野党はまとまってもう1つの選択肢を示すことができた。これは市民の強い後押しがあったからだ。総選挙では、野党共闘の候補を1人でも多く選んでもらえるようがんばる。岸田さんは、民主主義の危機と言っているが誰がそれをつくったのか。加担してきたのは誰か。自民党の危機感の欠如ではないか。みんなの力で、総選挙で政権交代するためがんばっていこう」と訴えました。

反貧困ネットワーク事務局長の瀬戸大作さんは、「コロナ禍で700人以上の困窮者を支援してきた。20~30歳代の困窮者の度合いが増えており、福祉は助けてくれないと言っている。シェルター

に来た外国籍の人は、仮放免のもとで4～5年も放置され公的支援が受けられていない。民間団体の支援には限界がある。彼らのような人たちが前を向いて歩いていけるようにするためにも、総選挙で与党をひっくり返すことが必要」と話しました。



改憲問題対策法律家6団体連絡会の大江京子弁護士は、「日本学術会議会員の任命拒否では意に沿わない人を排除し、モリ・カケ・桜問題では解明に背

をむけ、政治を私物化して真相にフタをしようとした。コロナでは医療など必要な施策を怠り続け、入院・治療が受けられない究極の『自助』という政策を実施した」と菅首相を痛烈に批判。「憲法違反、法律違反、説明しない、人のいのちを何とも思わない、アベスガ政治を終わらせよう。憲法に基づく政治を実現しよう」と訴えました。

総がかり行動実行委員会共同代表(憲法9条を壊すな!実行委員会)の高田健さんが行動提起を行い、「総選挙の日程について、10月19日公示、31日投開票との報道がされている。歴史的なたたかいで政権交代を勝ち取ろう」と呼びかけ、当面の行動について提起しました。

当面の行動

- 10月8日(金) 憲法共同センター「9の日」宣伝 12時～ 新宿駅西口
- 10月8日(金) 総がかり行動 選挙に行こう!「青年向け」街頭宣伝
18時30分～ 新宿駅東南口
- 10月12日(火) 総がかり行動 ウィメンズアクション 18時～ 有楽町イトシア前
- 10月18日(月) 総がかり行動 街頭宣伝 18時～ 新宿駅西口
- 10月19日(火) 総がかり行動 19日行動 18時30分～ 国会議員会館前
- 11月3日(水・祝) 総がかり行動 憲法集会 14時～ 国会正門前(オンライン視聴を基本に)